

経営目標 教育目標	【学校経営目標】 『知・徳・体』の基礎・基本の定着を図り、『評価と公開』による学校教育に対する信頼性と満足度の向上を図る。 【学校教育目標】 確かな学力と豊かな心を持ち、よりよい社会の形成者として未来を切り拓く志と意欲にあふれた生徒の	めざす 生徒像	『夢・実現に向けて高い志をもち、絶えず努力し続ける生徒』 ・自ら意欲的に学習に取り組み、自らの未来に夢を抱きながら努力し続ける生徒 ・道徳、特別活動、部活動に主体的に取り組み、マナーとルールを重んじる生徒 ・体を動かすことをいとわない生徒 ・神石高原中学校の生徒として誇りをもつ生徒 生徒会目標「挑戦～やったことない事やってみよう」
--------------	--	------------	--

評価計画						自己評価						学校関係者評価				
中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成の方策 (具体的な取組内容)	評価項目・指標	目標値	時期	達成値	評価	達成状況	改善方策	担当者	評価			コメント	
												イ	ロ	ハ		
確かな学力	1 学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図る	1	・すべての教科で課題発見・解決学習を取り入れる ・「学び合い」の授業スタイルを行う	各教科の定期試験での正答率30%以上の生徒の割合	80%以上	中間	91%	A	定期テストの平均正答率30%以上の生徒は1学期中間92%、1学期末91%、2学期中間90%で平均91%だった。	目標値には達しているが、今後は課題発見・解決学習を生かした問題作成に取り組む。	豊田・池田	○			熱心な指導を継続して行っている様子が感じられた。	
						最終	92%	A	定期テストの平均正答率30%以上の生徒は2学期末92%、3年生学年末94%で、年間通しての平均は92%だった。	平均正答率が30未満の生徒が固定化している。「学び合い」を活用して全員が「分かった」と言える授業にする必要がある。		○			教師集団がよく取り組んでいる。「学び合い」の目標の設定については次期検討の必要がある。	
		2	・生徒一人につき、各種検定やコンクールに1回以上チャレンジさせる。(英検・漢検・数検及びコンクール等) ・生徒へ定期的に呼びかける。	コンクールや各種検定にチャレンジした生徒の割合	85%以上	中間	97%	A	コンクールや各種検定に1回以上チャレンジした生徒の割合は96.7%だった。	目標値に達しているがさらに呼びかけを行い、チャレンジさせる。	赤木・神田	○			素晴らしい成果が出ていると思う。各教科で工夫を重ねてほしい。	
						最終	98%	A	コンクールや各種検定に1回以上チャレンジした生徒の割合は最終的に97.8%であったが、さらに多数の生徒が漢字検定や数学検定・英語検定に挑戦した。	来年度は全員が何かのコンクールや検定に挑戦していくよう呼びかけを行っていく。		○			よい取組になった。複数回チャレンジへの声かけができたのはよかった。	
		4	・中高連携	生徒アンケートにより、『高校に入って、さらに学んでみたいと思った。』の項目	80%以上	中間	87%	A	乗入れ英語授業10月末現在で72時間実施した。6クラブ中、4クラブで部活動交流を行い、10月末現在で13回。9月末アンケートの肯定的評価87%だった。	高校生と交流することで、生徒達も喜んでいる。その他にも交流できる活動があれば、連携をとって増やしていく。	佐伯・松井	○			教師連携の活用については中高でさらに改善の工夫を考えてほしい。	
						最終	85%	A	乗入れ英語授業(1~3学年)を1月末現在で109時間実施した。12月末アンケートでは肯定的評価は85%だった。	乗入れ英語授業に対して若干肯定的回答が減ったのが課題である。T.Teachingの授業展開の工夫をしていく必要がある。		○			オープンスクールの参加率の向上など油木高校との連携の強化を図ってほしい。	
	3	・家庭学習の習慣化	模範的な自主学習ノートの紹介や取組の指示を、定期的に行う。	家庭学習が(1日あたり)1時間以上の生徒の割合	90%以上	中間	87%	B	校舎内に「良いノート」例を掲示、授業で良いノートづくりのポイントの説明を実施。9月末アンケートで家庭学習1時間以上の生徒は87%だった。	日頃から1時間以上定着させるように定期的に良いノートづくりの掲示物変更と説明を行う。	赤木・松井	○			よく努力をされているが、習慣化に向けて継続した指導が必要であろう。	
						最終	91%	A	校舎・教室内に新たに「良いノート」例を掲示し、授業で工夫したノートづくりを指導している。12月末アンケートで家庭学習1時間以上の生徒は91%だった。	まだ約10%の生徒が1時間未満の学習である。まず日頃の宿題をやりきらせ、自主学習ノートへの取組を継続させていく。		○			家庭学習を、生徒個人の時間だけでなく内容についての方向・指導を考えていく必要もある。	
	豊かな心	2 社会に貢献できる生徒の育成	1	・地域に貢献できる生徒の育成 ・ボランティア活動の実施	生徒アンケートで地域理解が進んだとする、4項目の肯定的評価の平均	80%以上	中間	94%	A	文化祭での各学年の発表では、それぞれが地域での学習をいかした発表ができていた。文化祭を終えての生徒アンケートで達成感を感じた生徒は94%だった。	3年生が次世代議会で町への提言を行う機会も有り、これからさらに地域の話や課題を各学年で取り上げていく。	楠間・大元	○			熱心な取組と思う。この様子をもっとメディアに取り上げてもらうようにアピールできれば良い。
							最終	81%	A	3年生(4名)が次世代議会で町への提言をしっかりとやりきった。生徒アンケートで「地域のニュースや出来事に興味を持っている」の肯定回答が83.7%、「神石高原町のよい点や課題について考えることが増えた」の肯定回答が77.9%であった。	「地域の今後がどのようになるか考えることができた」の肯定回答が73.3%であり、次年度さらに取り組みを工夫していきたい。		○			中学生が地域についてこんなに興味を持っていることは素晴らしいこと。展開を考えてほしい。
							中間	57%	C	ボランティア活動に参加したというアンケート結果が57%だった。自主的に参加したというもの意識が強く、肯定の回答が少ない。	いろいろな活動がボランティアに当たることを周知していく。活動を紹介していく。		大田・大元	○		
			最終	90%	A	生徒アンケートで「当番や自分の役割でなくても自分から人の役に立つことを考え、動くことができる。」の肯定回答89.5%、「学校や人々の役に立つことを進んで行うことができる。」の肯定回答90.7%であった。	いろいろな活動がボランティアに当たることを周知していく。活動を促していく。	○			「こういうのもあるんだよ」という情報を生徒に与え、多方面に構えていきたい。					
2			・基本的な生活習慣	・ノーチャイム	生徒アンケートで時間が守れたという肯定的評価	80%以上	中間	74%	B	2分前行動を意識して生活できた生徒が74%だった。(1年65%、2年77%、3年82%)	気温も下がり時間を意識した行動ができていく時期を迎えるが、特に授業の開始・終了を徹底していく。	横尾・大元	○			「守れた」という意識に学校と生徒の差があるのではないか。授業と掃除等それ以外の時間での意識差も生徒に確認させてやらなければいけない。
							最終	94%	A	生徒アンケートの「ノーチャイムを意識して生活できている。」の肯定回答が94%であった。	「全校朝会や集会時には2分前行動を意識している。」の肯定回答が90.7%、と授業や掃除時と差があり、意識化を図る。		○			「意識して生活」という観点で、より具体的な取組となった。引き続き取組を進めてほしい。
	・相談活動	個人面談1人3回以上		80%以上	中間	66%	C	各学年が個人面談1人2回以上を実施している。	今後個人面談1人1回以上を実施していく。	廣田・大元	○			予定通りである。継続して行うことで生徒の気持ちを受け止めることのできる学校作りを進めてほしい。		
最終	100%	A	各学年が個人面談1人3回以上を実施している。	次年度においても計画的な個人面談を行い、生徒理解を進めていく。	○			生徒によく関わっている。今回はこの項目は変えていくべきではないか。								

【自己評価 評価基準】
 A: 100% ≤ (目標達成)
 B: 80% ≤ (ほぼ達成) < 100%
 C: 60% ≤ (もう少し) < 80%
 D: (できていない) < 60%

【学校関係者評価】
 イ: 自己評価は適正である。
 ロ: 自己評価は適正でない。
 ハ: わからない。